

夏休み子ども向け公開講座



今回で7年目を迎えた本講座は、「地域中核のコミュニティカレッジ」を目指す本学が、佐倉市教育委員会より「市民公開講座事業」の委嘱を受けて、実施してきたものです。

2012年8月20日から24日まで5日間開催し、のべ100人の子どもたちが受講しました。講座は、「地域の子もたちが有意義な夏休みを計画する上で活用できる講座」というコンセプトの下、理科「たのしい理科実験」・国語「読書感想をまとめよう」・音楽「みんなで箏をひいてみよう」・図画工作「夏休みの課題（ポスターや風景画等）の製作」・英語「楽しくはじめようジュニア・イングリッシュ」の5科目で構成し、製作活動や体験学習を多く取り入れました。

本学学生ボランティアも、講師と共に、子どもたちの理科実験や箏演奏の支援に当たりました。

通学合宿（佐倉市・八街市）への  
本学学生のボランティア参加



通学合宿の目的は、高学年の子どもたちが親元を離れ、地域の施設において生活体験を行うことにより、自主性・協調性を高め、心豊かでたくましく生き抜く力を育むことです。家庭にとっても一定期間親子が離れて生活することで、日頃の親子関係を見直し、家庭の教育力を向上させる機会となることも目指しています。

この通学合宿に、小学校教諭を志す本学の学生がカウンセラー（佐倉市）およびリーダー（八街市）として参加。両教育委員会の方々からは、本学の学生たちが熱心で、互いに相談・工夫しながら活動していたことについてお褒めの言葉をいただきました。

総合子ども学研究所『実践・研究報告会』



2012年10月27日、千葉敬愛短期大学 KEIAI ☆フェスタ 2012 の中で、総合子ども学研究所「実践・研究報告会」を開催しました。

吉村真理子所長による「総合子ども学研究所」活動報告ののち、佐倉市中央公民館主催の通学合宿に関する学生たちの発表が、子どもたちと一緒に料理をしているスライドなどを交えながら行われました。

また、本学附属幼稚園の先生より、子どもたちが普段している遊びについての報告を受け、指定討論者である清水一巳所員が「遊びを通してみる子どもの姿」と題して、講演を行いました。

最後に、新田司所員から次年度への抱負と参加者への謝辞が述べられ、シンポジウムを終えました。

佐倉市青少年育成市民会議 30 周年記念事業  
「ぼくの声、私の声、みんなの声を未来へ！」  
本学学生も発表参加



2012年10月21日、佐倉市各地区住民会議、PTA、青少年相談員、保護者ら関係者120名が参加し、佐倉市立中央公民館において、佐倉市青少年育成市民会議30周年記念事業「ぼくの声、私の声、みんなの声を未来へ！」が開催されました。

小中学生による少子化や家族のコミュニケーションの問題についての発表の後、教員や保育士を目指す本学学生4名も、自らの課題である就職について発表しました。

また、最後に、吉村所長がコーディネーターを務め、「青少年が育つ環境づくりのために地域が果たす役割」について、シンポジウムを行いました。

本研究は、「子ども」を様々な視点から、学問的・実践的見地に基づいて研究し、本学の教育及び地域の初等教育・幼児教育・保育の充実発展に寄与することを目的として設置されました。

# 総合子ども学研究所 ニュースレター 第1号

発行日：2013年4月1日  
http://www.chibakeiai.ac.jp  
〒285-8567 千葉県佐倉市山王1-9  
TEL.043-486-7111 (代表)

千葉敬愛短期大学「総合子ども学研究所」  
ニュースレター第1号の刊行にあたって



所長 吉村 真理子  
(千葉敬愛短期大学教授)

この度、関係機関および地域の皆様方に本研究所の活動を知っていただきたく、ニュースレターを発刊する運びとなりました。本研究所は、2009年に創設され、主な活動として、地域の方々と本学学生、教職員とが、子どもについての学びを共有し、交流させていただく貴重な機会とする『『現代子ども学』公開講座（年2回）』の開催の他、「夏休み子ども向け公開講座」の開催、佐倉市・八街市の「通学合宿」へのボランティア派遣、「総合子ども学研究所『実践・研究報告会』」の開催、附属幼稚園との共同研究などを行っています。

今後も、子どもをありのままに受容する姿勢を堅持しつつ、子どもをより多くの学問領域から総合的に見つめることのできる、初等教育者・保育者の育成に努め、地域に貢献してまいりたいと考えます。これまでと変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

「総合子ども学研究所」からのお知らせ

「現代子ども学」公開講座

第8回公開講座  
「環境の不都合な真実～すべての能力は環境である～」  
の裏側にあるもの

日時：2013年5月21日（火）16:30～18:00  
講師：安藤 寿康先生（慶應義塾大学 文学部 教授）

第9回公開講座  
「いろいろな育ちがあっていいんだ～親と暮らすことのできない子どもたちを支える社会的養護～」

日時：2013年12月3日（火）16:30～18:00  
講師：渡井 さゆり先生（NPO 法人 社会的養護の当事者参加推進団体 日向ぼっこ 理事長）

皆さまのご参加をお待ちしております！

※ お申し込みは、本学ホームページより、または上記代表電話にご連絡ください

コミュニティカレッジ **New!**

2013年4月、佐倉市立教育委員会社会教育課と佐倉市立白井公民館が、佐倉市立千代田小学校地域学習室\*に、2年制のコミュニティカレッジを開校します。

本学は、1年次「人間学」のカリキュラム作成および講師派遣の協力をしています。

1年次：「人間学」

コミュニケーションの大切さやそのスキルを高める手法など、人と人との関わり方を学びます

2年次：「地域学」

地域コミュニティの課題、様々な地域活動の実践例、具体的な実践手法など、共に生き、支え合う地域づくりについて学びます

\* 学校教育上支障のない限りで社会教育活動に利用できるよう整備された教室のことで、学校教育法および社会教育法で定められているものです。

【「現代子ども学」講義内容】

2011年度（1年次後期）

「現代子ども学Ⅰ」～「育つ」の視点から子どもを見つめる～

開催	月日	内容
第1回	10/5	ガイダンス (吉村、新田)
第2回	10/12	「子ども学」の内容とその必要性 (吉村、新田)
第3回	10/19	子どもの心と身体 (原子 純)
第4回	10/26	子どもの好奇心と創造性 (伊藤 勝博)
第5回	11/2	子どもへのまなざし (林 孝憲)
第6回	11/9	絵本・子ども・美術 (久保木 健夫)
第7回	11/16	被災体験と子どもの心 (大野 雄子)
第8回	11/30	子どもの「育ち」(1) (新田 司)
第9回	12/7	公開講座事前指導 (吉村、新田)
第10回		第5回公開講座 (「りんごの木」代表 柴田 愛子)
第11回	12/14	「東日本大震災・子ども応援プロジェクト」
第12回	12/21	子どもの「育ち」(2) (新田 司)
第13回	1/11	現代の子ども像 (佐倉市立山王小学校教頭 金木 勝己)
第14回	1/18	赤ちゃんと音楽 (竹内 アンナ)
第15回	1/25	まとめ (吉村、新田)

2012年度（2年次前期）

「現代子ども学Ⅱ」～「育てる」の視点から子どもを見つめる～

開催	月日	内容
第1回	4/11	ガイダンス (吉村、新田)
第2回	4/18	子育て支援 (吉村 真理子)
第3回	4/25	虐待と子どものこころ (藤 京子)
第4回	5/2	保育所における家族支援 (松本 峰雄)
第5回	5/9	かかわりの中で育つ子ども (山中 護)
第6回	5/16	乳幼児とおもちゃ (桑原 逸美)
第7回	5/23	遊びができる環境とはⅠ (清水 一巳)
第8回	6/20	遊びができる環境とはⅡ (清水 一巳)
第9回	6/27	公開講座事前指導 (吉村、新田)
第10回		第6回公開講座 (お茶の水女子大学大学院 教授 榎原 洋一)
第11回	7/4	子どもを取り巻くことばの渦 (鈴木 健一)
第12回	7/11	「発達障害のある子の指導と予後」 (「障害者の就労を支援する会」代表 平林 計重)
第13回	7/18	「被虐待児を支えるということ」 (子どもの虹情報研修センター研修主任 植原 真也)
第14回	7/25	「人としての感性をつくる、磨く」 (本学非常勤講師 松尾 忠正)
第15回	9/26	まとめ (吉村、新田)

第11回

「東日本大震災・子ども応援プロジェクト」小豆島サマーキャンプ参加学生による発表 ～小豆島に笑顔が咲きました～

日本子ども学会「東日本大震災・子ども応援プロジェクト」小豆島サマーキャンプにボランティアとして参加した本学2年生3名が、本学学生全員に体験報告をしてくださいました。  
キャンプの様子を映しながら、実習で出会った子どもたちに接するのと同じように、一人ひとりの気持ちに寄り添うことを心がけたと語ってくださいました。



第12回

「子どもの「育ち」(2)～こうのとりのゆりかごを通して考える」



「子どもを育てるのは誰」なのか、熊本市の慈恵病院に設置された「こうのとりのゆりかご」の事例を通して、考えていきました。

新田 司

現代の子ども像

通学合宿を通して見えるもの

2011年度の「佐倉市チャレンジ!通学合宿 (佐倉市青少年センター)」にボランティアスタッフとして参加した学生が、金木先生の講義内容について、実感を持ってうかがった感想を述べました。保護者の方からも、「子どもたちはもちろん、教師になるという夢を叶えようとしているボランティア学生の皆さんにとっても、子どもを深く知る良い経験となったのではないのでしょうか」との励ましのメッセージをいただきました。



第11回

「子どもを取り巻くことばの渦」



子どもたちは、氾濫することばの中で、正誤・適否の判断を迫られています。そうした現実を認識してもらえればと思います。

鈴木 健一

第12回

発達障害のある子の指導と予後 ～働く力を育てるためには～

2011年、千葉公園内に障害者の就労体験や支援を目的としてカフェハーモニを開店されました平林先生に、発達障害のある子どもたちの将来を見据えた、より具体的な指導の実際についてお話しいただきました。



【公開講座】

開催	日時	講義内容	講師
第1回	2009年11月24日	「子どもはみんなインフォメーション・シーカー」	一色 伸夫 甲南女子大学 人間科学部 総合こども学科 教授
第2回	2010年6月30日	「21世紀のこども観 —赤ちゃん学の立場から—」	小西 行郎 同志社大学赤ちゃん学研究センター 教授
第3回	2010年11月24日	「子どものウソは『嘘』か —創造的想像力を育てる大人の役割—」	内田 伸子 お茶の水女子大学 客員教授 名誉教授
第4回	2011年6月29日	「からだの成長とこころの発達 —子ども学から考える—」	小林 登 東京大学 名誉教授 / ベネッセ次世代育成研究所 所長 / CRN(チャイルドリサーチネットワーク) 所長
第5回	2011年12月7日	「子どもの心に寄り添うとは」	柴田 愛子 「りんごの木」代表
第6回	2012年6月27日	「発達障害のある子どもたち —正しく理解し、優しくサポートするには?—」	榎原 洋一 お茶の水女子大学大学院 教授
第7回	2012年12月5日	「居場所のちから —子どものいのちに寄り添って—」	西野 博之 NPO 法人フリースペースたまりば理事長

第6回「現代子ども学」公開講座

発達障害のある子どもたち  
～正しく理解し、優しくサポートするには?～

今回の講座にも、千葉県内の幼稚園や保育園の先生方、および地域の皆様方、約90名のご参加をいただき、本学2年生と教職員と一緒に榎原洋一先生のお話をうかがいました。



榎原先生のご専門である発達神経学の視点から、発達障害についてご説明いただきました。広汎性発達障害(自閉症)の方々は、顔の表情から人の感情を読み取る「顔認知」に関する上側頭回等の脳の部位に、障害を受けていることが多いとのこと。発達障害の子どもたちはどうしても叱られがちになり、「自尊感情の低下」という二次障害が生じがちであるため、「トークンエコノミー」「タイムアウト」といった行動変容法を活用し、「できるだけ褒める」ことを実践する必要があると、榎原先生は力説されました。



第7回「現代子ども学」公開講座

居場所のちから  
～子どものいのちに寄り添って～

千葉県内の幼稚園や保育園の先生方、および地域の皆様方、約60名のご参加をいただき、本学1・2年生と教職員380名と一緒に西野博之先生のお話をうかがいました。



「日本の子どもたちが自信を持っていないのは、『勉強もスポーツも、何でも完璧にできた方がいい』『友だちがたくさんいないと大変』というような「不安」を抱える大人が、子どもの先回りをして、子どもが成長するチャンスである失敗体験を奪ってしまっているからではないか」と語りかける西野先生。  
最後に、先生の肩に手を置いて、3,940gのご長男を自然分娩された奥様のお話を通して、私たちが忘れてしまいがちな「生まれてくれてありがとう」の気持ちの大切さについても、お話しいただきました。

